

無農薬ハチミツの贈り物

自然いっぱい田舎暮らしにこだわり、畑で野菜を収穫するだけでなくミツバチから自然のはちみつをいただく。山本さんの徹底したロハスライフをご紹介します。

文・開沼ゆたか 写真・大田孟明



時間をかける、百花蜜の喜び

きっかけは、自身の体調不良からだったという。改めて健康の有り難みについて深く考えたとき、人は「食」を見つめ直し「生活」を見つめ直す。

山本さんも、人の基本である「衣食住」の大切さに立ち返り、「人が人らしく暮らすこと」を実現するため、緑に囲まれた郊外に田舎暮らしをはじめた。土を耕してみる。畑で野菜を作りはじめてみる。そんな「自給自足」のローライフをスタートさせると、それだけに飽きたらず、10年前には養蜂もはじめた。「なぜ養蜂を？」との問いに山本さんは「はちみつが食べたかったからだよ」と笑う。

当初飼育していたのは西洋ミツバチ。6年間飼育していたが、花の蜜を集める過程でタニがミツバチに着き、巣箱でミツバチの幼虫に寄生してしまつたため、どうしても無農薬のはちみつを採取することが不可能だということに行き着いたそう。

そこで4年前から完全無農薬のはちみつが採れる「日本ミツバチ」の養蜂に切り替えた。

一種類の花から蜜を取ってくる西洋ミツバチは二週間程でハチミツを絞り出して楽しむことができるが、日本ミツバチはさまざま花から蜜を運び、搾取るまでに1〜2年という時間がかかる。しかしその時間の中でたくさん蜜がブレンドされ「百花蜜」と呼ばれる程、深い味わいが特長だ。

「虫食いの葉っぱだからうまいんだよ」

「変わりもんオヤジ」で、いいんだ(笑)

山本さんが西洋ミツバチから日本ミツバチの飼育に変えたのは、もつひとつの理由がある。

さまざま種類の花から蜜を運び、という、日本ミツバチの習性そのものにも魅力を感じたからだ。

「ミツバチは花々から蜜を運ぶと同時に受粉するでしょう。受粉することで草木が実り、それを昆虫や動物が食べるといふ、まさに自然界の食物連鎖が生まれるよね。ミツバチがいなくてはこの地球上で豊かに暮らすことができないくらい、環境を担っているんだよ」と話すのは山本さん。

昨今、田舎暮らしを唱える人は多い。畑を耕し自給自足する人も増えてきた。しかしミツバチを飼ってまで自然スタイルにこだわる人は珍しいだろう。しかし山本さんは「変わりもんオヤジでいいんだよ、誰かが旗を振らな

いと」と満面の笑みをみせた。なるほど、山本さんは、本当に大切なことを伝えているのだと思った。

「人差し指ですくって舐めてみな。周囲をブンブン飛び回る日本ミツバチにこわごわ手を伸ばし、ネットに付いたはちみつをいただく。「これがはちみつかー」という感動が口の中に広がる。丁寧に育てた天然のはちみつとは、濃厚で香り高く甘いのだ。その味こそ山本さんのライフスタイルそのもののような気がした。



1 よく肥えた土と艶のある葉っぱ。本当の野菜の旨味を味わえるのは、人生の至福だと話す。 2 農薬を一切使わずに栽培しているため、葉っぱのどれもが虫食いの状態。「虫が食べるほど安全でおいしい」と話すのは山本さん。 3 山本さんの畑では、茄子・きゅうり・トマト・とうがらしなどが実っている。個人でいただく分としては十分だという。